

令和4年度防災分野のデータプラットフォーム整備にむけた調査検討業務  
技術検討ワーキンググループ(第1回)  
議事要旨

1. 日時

令和4年11月15日(火) 10:00~12:00

2. 出席者

大野委員、中村委員、眞野委員、武藤委員(50音順)

内閣府(防災担当)、デジタル庁、(国研)防災科学技術研究所

3. 議事次第

- (1) 事業概要
- (2) これまでの進捗状況
- (3) 本事業における今年度の検討方針(案)
- (4) 今年度の検討状況報告
- (5) 今後の予定(案)

4. 議事要旨

内閣府・デジタル庁より、本事業の概要や、次期総合防災情報システムや全国共通避難所・避難場所ID(以下、「避難所等ID」とする)等の検討に関する進捗状況を説明したのち、本年度の検討方針(案)及び検討状況(一部)を報告した。各委員からは以下の意見等があった。

【(1)事業概要・(2)これまでの進捗状況 について】

- 避難所等IDについて、避難所等は閉鎖・統廃合により、名称や住所等の変更が生じることがあるため、メンテナンス方法や、管理・運用ルールも検討するとよい。
- 公開される避難所のデータ項目には、指定日の情報もあるとよいのではないか。
- 避難所等IDの付番ルール等を全国自治体に浸透させる取組も重要となる。また、普及に向けては、地図事業者等の民間事業者とも連携して進められるとよいのではないか。
- 次期総合防災情報システムで配信されたデータを地方自治体側の防災情報システムが取り込めるような機能は重要と考える。
- 次期総合防災情報システムでは、地図上で避難指示の発令状況を確認できる

仕組みがあるとよい。

- データ整理の軸が重要。何のデータであるかの定義、生成、加工などのフェーズ、誰がどこで生成しかた起点の整理など。また、ID の付番自体が大事なのではなく、ID の付番されたデータにどのような属性を付与するのかが大事である。その際に、データの後処理をしやすいように、標記方法と値は違うことを意識してモデル化するとよい。

### 【(3) 本事業における今年度の検討方針（案）・(4)今年度の検討状況報告】

- 文献調査による防災分野で想定される情報共有グループの分類について情報共有グループの1~4はデータの流通形態による分類であるが、5及び6は流通形態ではなく目的を焦点にした分類であるので、階層化や区分して整理するとよいのではないかと。そして、「5.IoT 機器のデータ流通」と「6. 研究開発のためのデータ流通」については、さらに細かく分類整理すると、その後の検討がしやすくなるのではないかと。例えば、研究開発に用いるためのデータと、研究から提供されるデータを区分するなど。
- 情報共有グループごとのアーキテクチャの検討、データ流通における運用ルール検討では、時間軸を考慮して検討を行うとよいのではないかと。また、検討に移る前に、情報共有グループをさらに細分化してユースケースを記述するとよい。
- アーキテクチャの検討、運用ルール検討に移る前に、情報共有グループをさらに細分化してユースケースを記述する作業が必要になると考える。それぞれの機能要求をもとに、最終的には1本化したアーキテクチャが設計されることとなる。
- アーキテクチャの検討とデータ流通における運用ルールの検討は別々に並行して進めるのではなく、連携しながら検討していくとよいのではないかと。
- 参照アーキテクチャは構造設計書として汎用性・可用性が高いものであるとよい。登場するオブジェクトやステークホルダー等の関係や、取り扱うプロトコルスタック等を整理したレイヤードなどを明確にして、アーキテクチャとして整理していくとよい。
- アーキテクチャの検討では、実装や運用に依存するものを上手くモジュール化して、将来的な変化にも、構造設計は変えずに、個々のモジュールをアップデートして対応できるようにするとよい。
- データ取引市場について、DFFT を実現するためのデータ利用権を検討した事例がある。この点は戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）でも検証を進めているため、調査対象に含めてみてはどうか。
- アーキテクチャの検討は継続的に行われるべきものと考えられるため、今後の見

直し方法についても予め想定しておくといよい。